

輸出事業計画

※申請者名：有限会社浜田茶業、品目：茶（抹茶）

1. 輸出における現状と課題

【現状】

鹿児島県南九州市知覧に拠点を構え、知覧茶の製造・販売を行う茶商である。

地元農家から安定的に仕入れ、卓越した技術を持つ茶師2名が美味しい知覧茶を提供している。2019年には、食品安全規格「FSSC22000」を地域茶商として初取得し、食品安全の向上や業務効率化、企業価値の向上を実現している。

今後、国内の人口減少や高齢化などにより、国内の緑茶需要は減少していくことが確実であるため、現在輸出しているインドや、日本茶（特に抹茶）のニーズが高い海外を対象に輸出に取り組み、事業の維持・拡大を図る。

【課題】

➤ 製造施設の整備

「輸出加工の能力の増強」、「原料仕入れに伴う保管倉庫のスペースの確保」が課題。

➤ FSSC22000 の取得

現地バイヤーにFSSC22000 等の認証がないと取り扱いができないとの回答あり。

➤ 加工コストの削減（インド）

日本で茶葉のパッケージング等の加工を行うと人件費等の製造原価が高くなる。

➤ 販促 PR、顧客開拓

新たな販路となるアメリカ、カナダ、オーストラリアの開拓、インドのさらなる売上の拡大が課題。

2. 輸出事業計画の取組内容

➤ 製造施設の整備

製茶工場を新設。新しく碾茶・抹茶製造ラインを設置し、輸出用加工の生産能力の増強及び保管スペースを確保する。

➤ FSSC22000 の取得

認証取得に向け、製造施設の新設及び機械装置の導入、HACCP認証コンサルタントの指導を受けて早期認証取得を実現する。

➤ 加工コストの削減（インド）

大型パッケージに包装してインドへ輸送。当社の現地インド子会社において小売店や飲食店へ納入するサイズへ小分けする流通加工を行う。

➤ 販促 PR、顧客開拓

・展示会へ参加や商談会の実施。

・知覧茶と弊社の最高有段者にあたる2人の茶師の卓越した技とでブレンドした茶という強みを活かし、海外においてブランディングを行う。

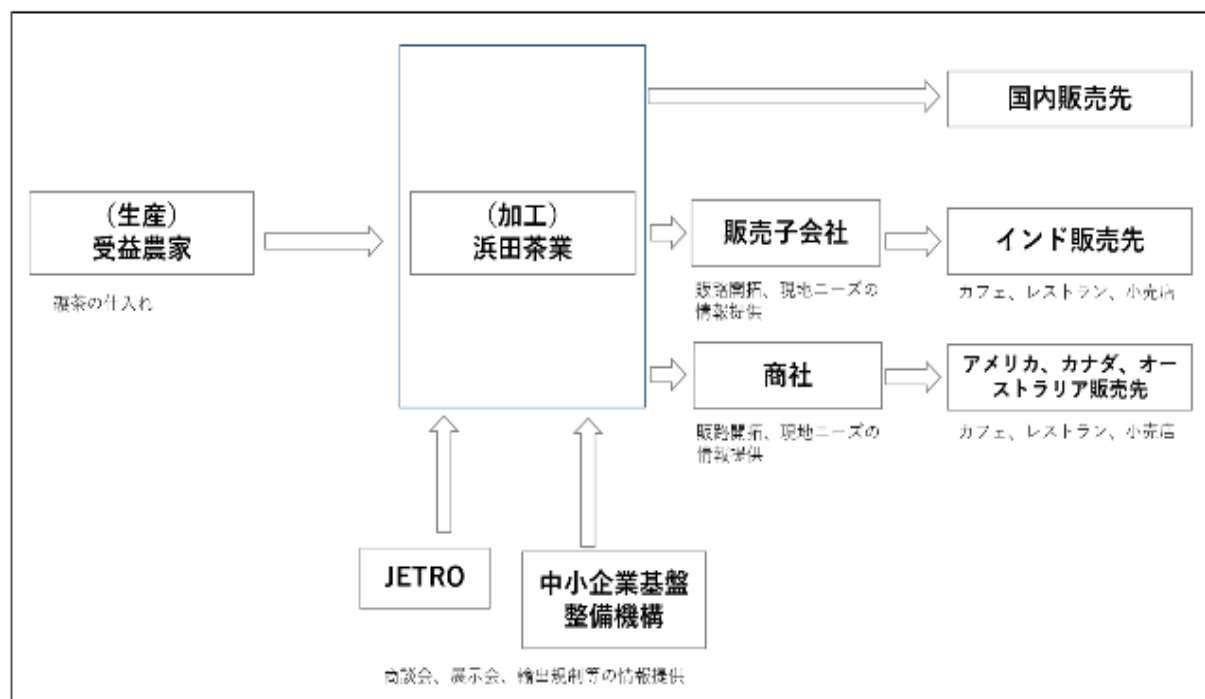
・現地の日系百貨店や各国の大手カフェチェーンなどに対し、商品サンプルを使用してクオリティの高さを十分に感じ取って頂きながら新規顧客化を図る。

・5つ星ホテル、ハイエンドレストラン、高級スーパー、モールなどに卸すことで日本茶ブランド「CHIRAN」の認知を高める。同時にフラッグシップとなる先端デジタル技術を活用したオンラインデリバリー店舗を立ち上げる。

輸出事業計画

※申請者名：有限会社浜田茶業、品目：茶（抹茶）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目：抹茶	現状 (令和6年2月期)	目標年 (令和11年2月期)
輸出額	967万円	6,612万円
輸出国	インド	インド・アメリカ・カナダ・オーストラリア